

8K超高精細技術への取り組み

アストロデザインは8Kの技術をご紹介します。昨年のロンドンオリンピックで使用したカラーグレーディング装置VP-8407、ハイライト編集、スロー再生機SR-8422を中心に、8K機材を一堂に展示いたします。8Kの映像をシアターでご堪能ください。

4K対応信号発生器

4K対応のディスプレイ、表示デバイスの評価に最適な信号発生器のラインナップをご紹介します。今回、描画エンジンを一新した新製品VG-876のデモを初披露いたします。HDMIやDisplayPort1.2などの最新規格に対応するプラットフォームが完成しました。2014年の放送開始を目指す総務省の方針によって勢いがついた4K市場をバックアップいたします。

4Kラインナップ

アストロデザインの充実した4Kラインナップのご紹介、4K撮影、中継をイメージしたデモを中心にシステムのご提案をいたします。スカパー JSAT様の4K中継などに使用した機材や、新製品の展示もいたします。新製品 フルHD有機ELのビューファインダーは4Kカメラに取り付けてご覧頂きます。

4K VIDEO WALL PROCESSOR

デジタルスイッチャの枠を超えた新たなカテゴリを確立するMEDIA INTEGRATOR MI-2100を、『4K VIDEO WALL PROCESSOR』としてご紹介します。4K表示機内に最大16映像の一括表示ができます。レイアウトの自由度が向上し、3G-SDI入力にも対応いたします。4K表示の魅力を引出す高性能PROCESSORです。

Dual Link HD-SDI、3G-SDI対応コンバータ

Dual Link HD-SDI、3G-SDIに対応したコンバータをご紹介します。多種多様な映像規格、コネクタに対応した高画質スキャンコンバータで音声にも対応しています。SNMP監視にも対応し、スタンドアロン使用をはじめ、ベースバンドや送出機器としても安心してご使用頂けます。

IPのデータを放送用信号であるTSに乗せる技術とその応用例

放送と通信の融合、そして次世代のサービスとして昨今非常に注目の高いIPDC(=IPデータキャスト)。このIPDCの分野でカギとなる『IPのデータを放送用信号であるTS(=トランスポートストリーム)に乗せる技術とその応用例』を、実機を用いてわかりやすくご紹介します。さらに、より信頼性の高いサービスを実現するために必須であるIPDCの監視装置も併せてご紹介します。

計測・解析装置

Source機器の開発に欠かせない各種インターフェースのプロトコルアナライザをご紹介します。4Kテレビなどで搭載されているHDMI 300MHz、携帯端末で採用が進むMHL、PC業界で普及しているDisplayPortをはじめ、新たに開発した、車載機器の映像・音声伝送に使用されるGVIFに対応したプロトコルアナライザのデモを是非ご覧ください。

ラウドネス・字幕監視

2011年7月に「地デジ化」が完了し、テレビ放送が次に向かうのは人に優しいサービスです。その具体的な取り組みの中に、「ラウドネス」と「字幕放送」があります。昨年(2012年)10月1日より、民放キー各局がラウドネス運用を開始し、全ての放送番組で、ラウドネス基準に準拠した番組制作、および送出が開始されました。今年4月からは、NHK様もラウドネスによる音声レベル管理を導入し、これで全ての地上波局でラウドネス運用が実現いたしました。アストロデザインでは、デジタルマスター、ファイリング(CMバンク/番組バンク)や編集室等でご使用頂けるラウドネスに対応したオーディオモニタ群の展示をいたします。字幕放送サービスにおいては、波形、ベクトルといった信号品位の監視だけでなく、アンシラリー領域に重畳される字幕情報、民間制御信号やCMコード等といったデジタル情報の監視が必要となっており、そのニーズに合った字幕監視ラスタライザを展示いたします。